

障害者のイメージに関する基礎研究(3)

- 「障がい」者表記の効果に関する検討 -

北星学園大学 豊村 和真(会員番号 00049)

キーワード：障害者，イメージ，表記

1. 研究目的

障害者に対するイメージを決定する要因は多くあると考えられており、多様なアプローチが試みられている(豊村,2009 など)。これらの研究においては、「障害者」の表記で研究が行なわれていた。一方で、この「障害者」あるいは「障がい者」(あるいは障碍者)表記の問題は、相当昔から言及されており、国や地方公共団体等では近年になって「障がい者」と表記する例が多くなってきた。しかしこの表記についてはどれも一見もっともらしい意見はあるが、実際には「障がい者」表記の効果は、必ずしも明らかになっていない。本報告ではこの問題について検討した栗田・楠見(2010)の研究をもとに、「障がい者」表記が障害者に対するイメージや意識に及ぼす影響を、接触経験・知識等従来言われてきた心理変数との関連をも考慮しつつ検討する。先の2報告ではイメージと表記の報告をおこなったので、本報告では主として態度に与える影響について報告する。

2. 研究の視点および方法

被験者は大学生 423 名(男性 125 名,女性 295 名,無記名 3 名),平均年齢 19.7 歳(SD=2.2 歳)であった。イメージの測定には栗田・楠見(2010)で用いられた身体障害者イメージ尺度を参考に、単極性の障害者イメージ尺度を作成した(22 項目)。態度の測定には当惑尺度(8 項目,例:障害者には気軽に声がかかけられない),及び交友関係尺度(9 項目,例:障害者の学生とレストランで食事をする場合),自己主張尺度(9 項目,例:障害者の学生が自分でできると思われるので手伝いを断る場合)を使用した。接触経験は、「実習やボランティア活動等で直接的に頻繁に関わった(直接多)」「実習やボランティア活動等で直接的に数回関わった(直接少)」「講義や新聞,テレビ等で見たり聴いたりしたことがある程度(間接)」「全く関わったことがない(経験無)」の4件法で尋ねた。知識については、豊村(2005)で用いられた知識項目から9項目を使用した。質問紙は、「障害者」を漢字表記(障害者)としたものと、ひらがな表記(障がい者)した2種類を作成し、ランダムに配布した。なお分析の際に接触経験は3群(直接多・直接少・間接)に、知識は2群(高・低)に分けた。「障害者」と「障がい者」の表記の違いは「表記」群とした。

3. 倫理的配慮

配布アンケートは匿名にし、データの処理に当たっては、個人名が特定できないように

配慮した。

4. 研究結果

障害者との交流場面に対する態度について、接触経験、表記、知識の影響を検討するために、当惑尺度及び交友関係尺度、自己主張尺度を用いた。前者については得点が高いほどより当惑することを示し、後2者については得点が高いほど抵抗感を感じないことを示す。それぞれの尺度において得られた得点の合計を群化して算出し、それぞれの群の平均を表に示した。これらの値をもとに分散分析を行った。

表 当惑尺度、交友関係尺度、自己主張尺度における表記群×知識群×接触経験群の平均値とSD

	漢字						ひらがな					
	知識低			知識高			知識低			知識高		
	接触多	接触少	間接	接触多	接触少	間接	接触多	接触少	間接	接触多	接触少	間接
当惑尺度	21.75 (1.93)	25.48 (1.09)	29.97 (1.48)	20.38 (1.69)	26.45 (1.23)	30.64 (2.60)	22.54 (1.76)	27.88 (1.12)	31.05 (1.40)	22.35 (2.09)	26.56 (1.24)	30.65 (1.93)
交友関係尺度	37.78 (1.61)	35.61 (0.87)	32.65 (1.17)	40.14 (1.27)	35.57 (0.97)	30.64 (2.06)	37.63 (1.39)	33.48 (0.90)	32.24 (1.12)	38.89 (1.56)	37.29 (0.97)	32.95 (1.52)
自己主張尺度	28.53 (1.91)	26.90 (1.00)	27.76 (1.37)	29.04 (1.52)	28.94 (1.15)	24.30 (2.50)	27.39 (1.65)	26.63 (1.05)	27.71 (1.33)	30.05 (1.81)	29.33 (1.13)	25.70 (1.77)
	(0.36)	(0.20)	(0.27)	(0.30)	(0.23)	(0.48)	(0.33)	(0.21)	(0.26)	(0.37)	(0.23)	(0.36)

※()内はSD
※()内はSD

当惑尺度について

直接多群よりも直接少群、直接多群よりも間接群の方が有意に当惑尺度の得点が高くなることがいえた。

交友関係尺度について

接触経験によって交友関係尺度の得点に差があることがいえた。直接少群よりも直接高群、間接群よりも直接多群の方が有意に交友関係尺度の得点の平均値が高くなることがいえた。

自己主張尺度について

表記（漢字群とひらがな群）によって自己主張尺度の得点に差があることが言え、漢字表記群よりもひらがな表記群の方が自己主張尺度の得点が高いことがいえた。

なお、本研究は非学会員の佐々木茜氏との共同研究である。

【文献】

栗田・楠見(2010),「障がい者」表記が身体障害者に対する態度に及ぼす効果 接触経験との関連から, 教育心理学研究,58,129-139.

豊村(2009),「障害者のイメージに関する基礎研究」,日本福祉心理学会第7回大会発表論文